

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月8日

【四半期会計期間】 第71期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 三井住建道路株式会社

【英訳名】 SUMIKEN MITSUI ROAD CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松井 隆幸

【本店の所在の場所】 東京都新宿区余丁町13番27号

【電話番号】 03(3357)9081(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 澤木 忠

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区余丁町13番27号

【電話番号】 03(3357)9081(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 澤木 忠

【縦覧に供する場所】 三井住建道路株式会社 中部支店  
(名古屋市中区千代田一丁目16番6号)

三井住建道路株式会社 関西支店  
(大阪市西区江戸堀一丁目22番4号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第2四半期 連結累計期間	第71期 第2四半期 連結累計期間	第70期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	12,043	13,814	32,439
経常利益 (百万円)	12	264	1,366
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	511	149	1,378
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	602	168	1,497
純資産額 (百万円)	8,163	9,107	9,058
総資産額 (百万円)	21,803	23,256	25,448
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	28.02	8.18	75.57
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	36.9	38.6	35.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,871	34	129
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	156	252	591
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	224	278	380
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	5,570	6,416	6,981

回次	第70期 第2四半期 連結会計期間	第71期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.84	10.88

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社の企業集団が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績は引き続き堅調に推移するとともに、設備投資に持ち直しの動きが見られ、人手不足を背景に雇用情勢の改善が続くなど、景気は緩やかな回復基調が持続しております。

道路建設業界におきましては、公共投資は底堅い動きとなっており、民間需要も持ち直しの傾向にありますが、主要材料であるアスファルト仕入価格の動向が不透明なことに加え、企業間の競争は依然として厳しい状況にあるなど、経営環境の先行きに予断を許さない状況となっております。

このような状況のもと、当社グループ(当社及び連結子会社をいう。以下同じ。)は、『ステークホルダーズに信頼される質重視の経営』を展開することを基本コンセプトに掲げた「中期経営計画(29/3期～31/3期)」に則り、安定した収益体質を確立し、顧客・株主・社員・社会・環境との関係を常に視野に入れた経営を実践することで、企業の社会的責任を果たすとともに、人材育成と労働環境の改善、株主満足度の向上を目指してまいりました。また、内部統制システムの整備・強化などコーポレートガバナンスの充実を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、受注高は163億42百万円(前年同期比3.8%増加)、売上高は138億14百万円(前年同期比14.7%増加)、経常利益は2億64百万円(前年同期は経常利益12百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億49百万円(前年同期比70.8%減少)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。なお、報告セグメントの利益は売上総利益の数値であります。

#### (建設事業)

建設事業におきましては、受注高は138億48百万円(前年同期比3.8%増加)、完成工事高は112億87百万円(前年同期比17.3%増加)、セグメント利益は10億11百万円(前年同期比35.2%増加)となりました。

#### (製造・販売事業)

建設用資材の製造・販売事業におきましては、売上高は24億93百万円(前年同期比4.2%増加)、セグメント利益は3億2百万円(前年同期比1.7%減少)となりました。

#### (その他)

その他におきましては、太陽光発電による売電事業の売上高は33百万円(前年同期比9.5%増加)、セグメント利益は21百万円(前年同期比13.3%増加)となりました。

なお、「中期経営計画」の詳細につきましては、平成28年3月公表の「新中期経営計画策定のお知らせ」をご参照ください。次のURLからご覧いただくことができます。

(当社ホームページ)

<http://www.smrc.co.jp>

(2) 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べ21億92百万円減少して232億56百万円となりました。これは、受取手形・完成工事未収入金等が減少したこと等によります。

負債合計は、同22億41百万円減少して141億48百万円となりました。これは、支払手形・工事未払金等が減少したこと等によります。

純資産合計は、同48百万円増加して91億7百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益1億49百万円の計上により利益剰余金が増加したこと等によります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローにつきましては、仕入債務の減少等により営業活動によるキャッシュ・フローは34百万円の資金の減少(前年同期は18億71百万円の資金の減少)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により2億52百万円の資金の減少(前年同期は1億56百万円の資金の減少)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、ファイナンス・リース債務の返済による支出等により2億78百万円の資金の減少(前年同期は2億24百万円の資金の減少)となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、5億64百万円減少し、64億16百万円となっております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は、東京都、東京港埠頭株式会社若しくは成田国際空港株式会社が発注する舗装工事又は国土交通省が発注する東京国際空港に係る舗装工事に関し、独占禁止法違反の疑いがあるとして、平成28年8月3日に公正取引委員会の立入検査を受けました。

当社といたしましては、このような事態になりましたことを厳粛に受け止め、コンプライアンス強化のため、「談合排除プログラム」の策定、役職員への遵守教育等、実行可能な対策を順次実施しております。

また、企業市民として、安全・品質の確保やコンプライアンスの徹底を実践し、公正妥当な事業活動を行うとともに、内部統制システムの充実に努めてまいります。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、32百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(注) 「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示しております。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,555,000	18,555,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株で あります。
計	18,555,000	18,555,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日		18,555		1,329		541

## (6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三井住友建設株式会社	東京都中央区佃2丁目1-6	9,963	53.69
HORIZON GROWTH FUND (常任代理人 三菱東京UFJ銀行)	89 NEXUS WAY, CAMANA BAY, KY1-9007 GRAND CAYMAN, CAYMAN ISLAND (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	698	3.76
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM (常任代理人 香港上海銀行)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD- HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	521	2.80
三井住建道路従業員持株会	東京都新宿区余丁町13番27号	318	1.71
三井住建道路株式会社	東京都新宿区余丁町13番27号	310	1.67
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	292	1.57
石田金造	広島県三原市	245	1.32
株式会社ウベモク	山口県宇部市西平原3丁目2-22	239	1.28
株式会社日本エフピー研究所	東京都品川区西五反田1丁目4-8-1005	198	1.06
服部光夫	大阪府泉佐野市	190	1.02
計	-	12,974	69.92

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 310,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,234,000	18,234	
単元未満株式	普通株式 11,000		単元株式数(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	18,555,000		
総株主の議決権		18,234	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式17株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 三井住建道路株式会社	東京都新宿区余丁町13 - 27	310,000		310,000	1.67
計		310,000		310,000	1.67

(注) 当第2四半期会計期間末の自己株式数は、310,017株であります。

## 2 【役員 の 状 況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の変動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	6,994	6,430
受取手形・完成工事未収入金等	10,440	1 7,692
製品	0	0
販売用不動産	2	2
未成工事支出金	730	1,808
材料貯蔵品	111	121
その他	287	507
流動資産合計	18,566	16,562
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物・構築物（純額）	1,514	1,469
機械及び装置（純額）	1,871	1,764
土地	2,483	2,483
その他（純額）	117	104
有形固定資産合計	5,986	5,821
無形固定資産	101	93
<b>投資その他の資産</b>		
破産更生債権等	2	2
その他	835	820
貸倒引当金	45	45
投資その他の資産合計	793	778
固定資産合計	6,881	6,693
資産合計	25,448	23,256
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	8,189	1 5,911
電子記録債務	3,555	1 3,218
未払法人税等	354	125
未成工事受入金	404	1,571
完成工事補償引当金	5	5
賞与引当金	10	7
工事損失引当金	19	14
独占禁止法関連損失引当金	146	
その他	1,279	894
流動負債合計	13,967	11,748
<b>固定負債</b>		
退職給付に係る負債	1,923	1,906
資産除去債務	80	81
その他	418	412
固定負債合計	2,423	2,400
負債合計	16,390	14,148

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,329	1,329
資本剰余金	1,541	1,541
利益剰余金	6,089	6,128
自己株式	78	78
株主資本合計	8,882	8,921
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	178	178
退職給付に係る調整累計額	136	123
その他の包括利益累計額合計	42	55
非支配株主持分	134	130
純資産合計	9,058	9,107
負債純資産合計	25,448	23,256

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1 12,043	1 13,814
売上原価	10,969	12,479
売上総利益	1,074	1,334
販売費及び一般管理費	2 1,061	2 1,063
営業利益	13	270
営業外収益		
受取利息	0	0
受取地代家賃	2	1
その他	5	5
営業外収益合計	7	7
営業外費用		
支払利息	2	0
支払保証料	5	8
業務提携関連費用		3
その他	0	0
営業外費用合計	8	14
経常利益	12	264
特別利益		
固定資産売却益	4	2
投資有価証券売却益	11	
収用補償金	11	
独占禁止法関連損失引当金戻入額	16	
特別利益合計	43	2
特別損失		
固定資産除却損	8	7
投資有価証券売却損	0	
特別損失合計	9	7
税金等調整前四半期純利益	46	259
法人税等	480	104
四半期純利益	527	155
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	511	149

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	527	155
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	
退職給付に係る調整額	82	12
その他の包括利益合計	75	12
四半期包括利益	602	168
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	586	162
非支配株主に係る四半期包括利益	15	6

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	46	259
減価償却費	279	309
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3	1
賞与引当金の増減額(は減少)	0	3
工事損失引当金の増減額(は減少)	3	5
独占禁止法関連損失引当金の増減額(は減少)	20	146
受取利息及び受取配当金	0	0
支払利息	2	0
投資有価証券売却益	11	
投資有価証券売却損	0	
固定資産売却損益(は益)	4	2
収用補償金	11	
固定資産除却損	8	7
売上債権の増減額(は増加)	2,034	2,748
たな卸資産の増減額(は増加)	674	1,088
その他の流動資産の増減額(は増加)	15	208
その他の固定資産の増減額(は増加)	1	0
仕入債務の増減額(は減少)	2,938	2,615
未成工事受入金の増減額(は減少)	653	1,166
その他の流動負債の増減額(は減少)	676	140
その他	3	3
小計	1,292	285
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	2	0
法人税等の支払額	577	319
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,871	34
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期積金の預入による支出	1	1
有形固定資産の取得による支出	161	230
有形固定資産の売却による収入	1	2
有形固定資産の除却による支出	7	4
収用補償金の受取による収入	4	
投資有価証券の取得による支出		1
投資有価証券の売却による収入	22	
その他	14	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	156	252
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	146	159
自己株式の取得による支出	0	
配当金の支払額	73	108
非支配株主への配当金の支払額	4	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	224	278
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,252	564
現金及び現金同等物の期首残高	7,823	6,981
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 5,570	1 6,416

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	百万円	89百万円
電子記録債権	百万円	4百万円
支払手形	百万円	11百万円
電子記録債務	百万円	8百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 工事進行基準による売上高(完成工事高)は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
	4,456百万円	5,458百万円

2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
従業員給料手当	516百万円	511百万円
退職給付費用	34百万円	29百万円

3 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)及び

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

当社グループの売上高は、主たる事業である建設事業において、契約により工事の完成引渡しが第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金預金	5,585百万円	6,430百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	10百万円	10百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期積金	3百万円	3百万円
現金及び現金同等物	5,570百万円	6,416百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月23日 取締役会	普通株式	72	4.0	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月22日 取締役会	普通株式	109	6.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設事業	製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,620	2,392	12,012	30	12,043		12,043
セグメント間の内部 売上高又は振替高		579	579		579	579	
計	9,620	2,972	12,592	30	12,623	579	12,043
セグメント利益	747	307	1,055	19	1,074		1,074

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業及び不動産取引に関する事業を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設事業	製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,287	2,493	13,781	33	13,814		13,814
セグメント間の内部 売上高又は振替高		811	811		811	811	
計	11,287	3,305	14,592	33	14,626	811	13,814
セグメント利益	1,011	302	1,313	21	1,334		1,334

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業及び不動産取引に関する事業を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	28円02銭	8円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	511	149
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	511	149
普通株式の期中平均株式数 (株)	18,246,033	18,244,983

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

(期末配当に関する事項)

第71期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)中間配当については、平成29年10月24日開催の取締役会において、これを行わない旨を決議いたしました。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月8日

三井住建道路株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内 田 英 仁 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 原 義 勝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井住建道路株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井住建道路株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。